



校長 甲斐正哉

新年おめでとうございます。

年末年始の冬休み期間中はいかがでしたか。進路実現に向けて家庭学習や校内外での課外授業に励んだ人、部活動の大会や遠征・合宿に取り組んだ人、郵便局のアルバイトに頑張った人、ご家族や友人とのひとときを過ごした人、家族で旅行をした人など、それぞれに充実した冬休みだったのではないのでしょうか。期間中、大した事故や病気もなく今日の三学期始業式に皆さんが登校できたことに感謝したいと思います。

ところで、昨年、東日本大震災からもうすぐ1年になろうとしていますが、現地では、尚も多くの困難や問題と懸命に戦っておられる多くの被災された方がおられます。今回の災害で被災された方のうち、現在12万人の方が仕事がなく失業中という報道がなされていました。熊本市の人口で考えると約9人に1人が仕事がないと考えてみて下さい。人間がだめになる方法・人間をだめにする方法は、「仕事がないこと・仕事を取り上げる事」と、「他とのコミュニケーションを一切取らないこと・取らせない事」とある本で読んだことがあります。この二つは、底辺で繋がっています。仕事は、単に生活の糧を得ることだけではなく、仕事を通して互いに繋がっており、社会の一員として繋がっているからです。たとえば今朝、皆さんは当たり前のように朝食をとり、制服を着て、電車やバスや自転車で登校してきたと思います。朝食だけを考えてみても、その食材を作った人・お店まで運搬した人・お店で販売に携わった人、そして作って下さったおうちの方など、それぞれの持ち場で責任を持って働いて下さったおかげで朝食が食べられたのです。制服にしても、通学にしても同様に、自分以外の実に沢山の人が働いて下さり、互いに繋がっていること、絆で結ばれていることが分かります。仕事がないと言うことは、単に経済的に生活が困難と言うだけではなく、互いの絆、社会との絆を結ぶことが危ういと言うことです。いかに、大変なことであるかが想像できます。

昨年暮れに京都の清水寺で発表された恒例の、平成23年の漢字は『絆』でした。今回の大災害で、日本中が互いの絆の大切さを再認識した年でもありました。本校からも、皆さんからの義援金の外に、1,000冊の図書を岩手県遠野市にお送りしました。これからも、同じ日本人として、また人として、被災された方々を私たちのできることで未永く応援してゆかなければならないと思います。

さて、今日から新校舎での3学期が始まりました。昨年末に皆さんに引っ越しの手伝いをしてもらったおかげで、なんとか新校舎でのスタートができました。全てが整っているわけではありませんが、この環境を大いに活用して充実した、楽しい学校生活を過ごして下さい。

3学期は、今日の始業式・実力考査に始まり、高校2年生の修学旅行・高校3年生のセンター試験・学年末考査・卒業式・中学2年生の修学旅行、そして金峰山登山といった行事があります。中高で4回の入学試験も予定しています。また、旧校舎を取り壊し、体育館アリーナの建設が始まります。何かと慌ただしい毎日かと思いますが、3学期は「仕上げの時／節目の時」です。三年生は進路志望の実現と卒業、1・2年生はそれぞれ上級学年への進級の大事な時です。『終わりよければ 全て良し』の諺もあります。まだまだ寒さも続きますが、健康に充分留意してそれぞれの課題にしっかり取り組み、有終の美を飾れるよう願っています。